

御殿場方言かるた 標準語訳

1	あ	そのうちに雨が降ってくると思うよ。富士山に大きい傘雲がかかってるから。
2	い	この人はいびきをかいて寝てるけど、どんな夢を見てるのかなあ？
3	う	おいしいから食べてみてよ。私の家で作ったとうな（水かけ菜）を。
4	え	毎日、廊下の雨戸を開け閉めするのは、お前のする仕事だよ。
5	お	奥さんたちの打った手打ちそばは、山芋がたくさん入っているよ。
6	か	焦げついたご飯が釜にくっついてしまっって、洗っても落ちないよ。
7	き	着ていたものを脱ぎっぱなしにしておいたらだめだよ。だらしがないんだから。
8	く	部屋が薄暗いから、悪いけど、電気をつけてくれるかい？
9	け	棚の上に乗せてあったお前の帽子はそこにかけ直しといたぞ。
10	こ	陽のあたる部屋の隅っこでひなたぼっこをしているおばあちゃん。
11	さ	こんなところじゃ寒いから家にあがってちょっとこたつで温まってください。
12	し	塩からい漬物を食べたら、お茶が飲みたくなったよ。
13	す	深い田んぼに入ったら、足が抜けなくなって尻餅をついてしまった。
14	せ	塞の神様を祀るどんどん焼きで団子焼こうよ。
15	そ	畑のその辺の大根でよければ、引っこ抜いて持っていきな。
16	た	お母さんが、たくさん食べなさいねって、ご飯を山盛りによそってくれたよ。
17	ち	さっさと宿題をやってしまいなさい。遊んでばかりいないで。
18	つ	捕まえたマムシを一升瓶に入れて焼酎漬けにするおじいちゃん。
19	て	てっぺんを目指して歩く富士登山。
20	と	徒競走は早いよ。いつもクラスで1番だよ。
21	な	子供たちが、実のなる木を叩いて、あずきがゆをなすりつける正月の行事。
22	に	初詣に行くときは、新しい着物を着てみんなで出かけるよ。
23	ぬ	道がぬかるんでいるよ。そこを歩くと泥だらけになっちゃうよ。
24	ね	内緒だよ、おばあちゃんがお小遣いくれたことは。
25	の	暖かい冬の日には切りばしを干すにはちょうど良いよ。
26	は	クワガタ虫を捕りに行こうよ、夏の朝に。
27	ひ	冷たいなあ。裏の湧き水で顔を洗う。
28	ふ	太い草はなかなか抜けないから鎌で刈ってしまおう。
29	へ	お釜を洗って煤がついた手で鼻をこすったらみんなに笑われた。
30	ほ	お坊さんも年の暮れは、座って門松をこしらえるよ。
31	ま	ちょっと待って、俺も一緒に行くからもう少しゆっくり歩いてくれる？
32	み	見てごらん、あたり一面黄色い菜の花畑だよ。
33	む	向かいの家からもらった柿がびっくりするほど甘かった。

34	め	探しているのに見つからないよ、俺のメガネは。
35	も	薪をくべて風呂を沸かしてるんだけど、煙いなあ。
36	や	嫌がって泣いている子をなだめながら注射する。
37	ゆ	朝日に照らされた雪景色がまぶしくて目が開けられない。
38	よ	ちょっと休みましょうとお茶を用意して声をかけるお母さん。
39	ら	そんなことをしていないで、先にこっちのことをやってくれよ。
40	り	礼儀正しい隣の嫁さんはよくできた娘だな。
41	る	親から留守番を頼まれたけど、一人ぼっちになってしまってつまないなあ。
42	れ	昔からの村長さんたちが額におさまって並んでいる村役場。
43	ろ	露地野菜の良いのが入ったから寄っていきませんか。
44	わ	お前、服が裏返しだぞ。慌て者だなあ。
45	を	をから始まるかるたの言葉、何かないかなあとみんなで考える。
46	ん	ん、でしまい。あから始まるのは、御殿場方言かるた。

●御殿場方言かるた制作協力者一覧（敬称略、五十音順）

【制作責任者】

御殿場ことば保存会 代表 勝又 精一

【相談役】

本崎 肇 横山 竹利

【読み札関連】

内海 信吾	小野 弘之	勝又 章子	勝又恵美子	勝又 恵子	勝亦 秀行
勝又 幸宣	川村 美穂	黒柳 信子	塩川 尋美	清水とよ子	杉山 精一
杉山 敏文	芹澤美智子	土屋 共栄	外川 幸枝	林 素真子	山崎たみ代
山田 孝子					

【送り仮名、文章校正】

岩瀬 次夫

【絵札原画の制作】

勝又 立雄

御殿場中学校：大谷 夏未	佐藤 愛桜	永木 結花	山崎 悠莉
富士岡中学校：勝又 小雪	城戸 彩音	香田 貫那	三枝 莉菜
原里中学校：上野 ゆな	八谷 怜那	松永 姫佳	他 1 名
西中学校：金子 真悠	近藤杏里紗	富山 美音	野崎 翠
高根中学校：瀬戸 清羅	高村 正乃	日比野紗瑤	日比野茉瑤
南中学校：大下 神楽	高橋 瑠夏	土田 小遥	林田沙耶子 他 1 名

